

レポートの基本のき

大学の課題レポートを書くためには、感想文や作文などの文章とは異なった文章スタイルを身につける必要があります。ここでは、レポートとは何か、形式や注意点など、基本的なレポートの書き方を説明し課題レポートがしっかり書けるようになることを目指します。

	レポート	感想文・作文
内容	<ul style="list-style-type: none"> あるテーマに基づいて設定した/された〈問い〉に対する〈答え〉を書く。 事実や研究結果・理論などの根拠に基づき、客観的に〈答え〉を論じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感じたことを自由に書く。
求められる力	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集力（テーマに関する資料を調べる力） 分析力（情報を分析する力） 論理力（客観的に、筋道だてて説明する力） 	<ul style="list-style-type: none"> 感性豊かな表現力（比喻などの表現技法を用いて伝える力）

1. レポートとは

レポートとは、あるテーマ（〈問い〉）に対するあなたの理解・考えを読み手に明確に伝えるものです。よって、出された〈問い〉をきちんと把握し、論理的に〈答える〉必要があります。

〈問い〉と〈答え〉のパターン

- ① 授業後に提出を求められる出席カードやミニッツ・ペーパーなど。
 - ◆ 〈問い〉「講義を聞いて考えたことを書きなさい。」「講義を聞いてわかったことを書きなさい。」
 - ◆ 〈答え〉授業の内容や授業で取り上げられたものについて考えたことや意見などを書く。
- ② 説明・報告型レポート…専門用語や概念、テキストの内容などを簡潔に説明するレポート。
 - ◆ 〈問い〉「〇〇について説明しなさい。」
 - ◆ 〈答え〉用語・概念・テキスト内容の説明。
- ③ 要約＋考察型レポート…文献を読んで内容を要約し、それに考察を加える。ブックレポート（書評）など。
 - ◆ 〈問い〉「〇〇を読み、内容を要約したうえで自分の考えを述べなさい。」
 - ◆ 〈答え〉文献の要旨・要旨に対する見解や批判的検討。
- ④ 論証型レポート…提示されたテーマの中で論点を絞り込み、論拠を提示して自分の見解を示す一般的なレポート。
 - ◆ 〈問い〉「〇〇について考察しなさい。」「〇〇についてあなたの考えを示しなさい。」
 - ◆ 〈答え〉論点にかかわる情報のまとめ・論点に関する見解・見解を支える根拠。
- ⑤ その他

専門性が高い論文についてはここでは省略します。先生の指示に従って書きましょう。例) 実験レポートなど

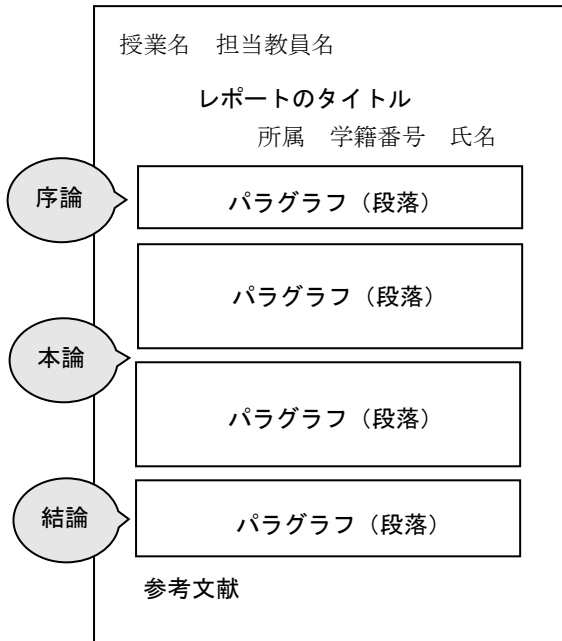
2. レポートの形式

- 1) 3部構成（序論・本論・結論）を意識する。
- 2) 文末は「だ」「である」体（常体）に統一し、「です」「ます」体（敬体）を用いない。
- 3) 参考文献リストがつけられている。
- 4) 表紙が必要な場合はつける。（広島修道大学指定（生協で販売）のレポート課題表紙をつける場合もある）
必要でない場合はレポート上部に課題情報・学生情報を書く。

レポートの構成

次に論文の基本構成となる、序論、本論、結論の3部構成を意識しながら書きましょう。ただし、専門分野や授業、先生によって、レポートの構成はこれ以外の形をとる場合もあります。まずは先生の指示をよく確認してください。

〈A4用紙1枚で作成するイメージ〉



序論 (はじめに)

…①〈問い〉の背景、②問題提起／主張、③本論の流れ(予告)を書く。

本論

…自身の〈答え〉や主張を論理的に説明する。場合によっては、他の人の研究や実験結果を引用や要約して論拠として用い、説明する。

結論 (まとめ)

…本論までのまとめをし、改めて〈答え〉を書く。

参考文献 (引用文献と書く場合もある)

…引用・参考にした文献があれば、本文の最後にリストにして記載する。

※引用・参考文献の詳細やフォント等の体裁についてはハンドアウト「引用のしかた編」「参考文献のあげ方編」「体裁編」を参照。

序論・本論・結論を書く要点

序論

序論は、あなたのレポートが何を、何のために明らかにするものなのかをはっきりと示す重要な部分です。

①〈問い〉の背景は、レポートで書かれている〈問い〉がなぜ重要なのかを説明する箇所です。そのことについて論じなければならない理由や状況、共有しておくべき前提を書きましょう。

②問題提起／主張では、①〈問い〉の背景から導き出すことができる〈問い〉を、問題提起の形、あるいは意見として主張する形で書きます。

③本論の流れ(予告)では、本論を読みやすくするために、何について述べていくかを順番に従って書きます。

本論

本論では、〈問い〉に対する自分なりの〈答え〉や、自分の主張を論理的に説明します。論拠として他の人の研究結果や論文をあげる場合は、引用や要約、その人の見解が正しいかどうかの検討などをします。自分で実験や調査をした場合は、調査の結果としてのデータを提示し、分析やその解釈などを書きます。

結論

これまで述べてきたことからのまとめを再度提示し、〈答え〉をはっきりと書きます。その上で、最後に今後の課題や今回わかったことを踏まえ、どのような議論が残されているのか、さらに疑問に感じたことなどがあれば書きます。

【参考文献】

井下千子 (2019) 『思考を鍛えるレポート論文作成[第3版]』慶應義塾大学出版。

戸田山和久 (2012) 『新版 レポートの教室 レポートから卒論まで』NHK 出版。